

平成25年度第1回練馬区立美術館運営協議会 要録

平成25年8月6日(火)

美術館1階視聴覚室

出席委員 高橋幸次副会長、青木茂委員、伊豆井秀一委員、大橋皓也委員、
佐藤康宏委員、井出洋一郎委員、松本透委員、関口和雄委員、
米沢ちひろ委員、さわむら信太郎委員、松村良一委員、
中島悠子委員、安斉紀子委員、畑浩二委員、伊藤定夫委員、
宮澤歳男委員、堀井安伸委員、吾妻彰委員

欠席委員 栗津則雄会長

区職員 中村地域文化部長、小金井文化・生涯学習課長
若林館長、中野副館長、内田次席、小野学芸補助員、
真子学芸補助員、加藤学芸補助員、喜多学芸補助員

館長：皆様こんにちは。本日はお忙しい中、また、暑いなかお集まりいただきましてありがとうございます。只今から、平成25年度第1回練馬区立美術館運営協議会を開催いたします。

私は、美術館長の若林と申します。よろしく願いいたします。

本日は、机の上に配布いたしました次第の1、委嘱状の交付から、部長挨拶まで、私が進行をさせていただきます。よろしく願いいたします。

館長：それでは、次第の1、委嘱状の交付から始めさせていただきます。
中村地域文化部長より区議会議員の4名の新委員の皆様お一人お一人に委嘱状をお渡しいたします。

< 委嘱状交付 >

館長：続きまして、中村地域文化部長よりご挨拶を申し上げます。

< 部長挨拶 >

部長：皆さま、こんにちは。本日はお忙しい中をご出席いただきありがとうございます。新委員の方へ本当であれば志村区長より委嘱するところですが、僭越ながら私から委嘱させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。美術館が開設してから28年の歴史を重ねてまいりました。3年前より、外部から若林館長を招聘し、新しいロゴマ

ークを作成し、より親しみを覚える美術館になってまいりました。
日本の近・現代美術だけではなく、西洋美術の企画展も実施し、一人でも多くの方にお越しいただきたく、より裾野を広げる試みもしてまいりました。

本日は、平成24年度の事業報告ならびに平成25年度の事業計画をご説明します。

さらに、美術の森緑地を美術館と一体で活用していただくため、来年度に整備することについても後程、お話しをさせていただきます。

各委員から忌憚のないご意見をいただき、ますます練馬区立美術館が多くの方に親しんでいただけるようにしてまいります。

本日はよろしく願いいたします。

<職員紹介>

館長：つぎに、本日出席をしております区の職員を紹介させていただきます。
先ほど挨拶をいただきました中村地域文化部長、小金井文化・生涯学習課長です。引き続きまして、美術館職員を紹介させていただきます。

<委員自己紹介>

館長：本日は新委員もいらっしゃいますので、委員の皆様にご自己紹介をお願いいたしたいと存じます。なお、先程、栗津会長より欠席との連絡がありましたので、高橋副会長から順にお願いいたします。

館長：それでは、本日は会長が欠席のため、高橋副会長に議事進行をお願いしたいと思います。

副会長：それでは、議事に入る前に、本日の委員の出席状況について、事務局から報告してください。

館長：現在、委員19名中、18名の出席でございます。運営協議会条例第7条により、本協議会は成立いたしました。以上ご報告いたします。
併せまして、本日の会議の傍聴希望はございません。

副会長：ありがとうございます。

はじめに、本日の議事の進行についてお諮りいたします。

次第の3、平成24年度事業報告から順次、事務局から説明を受け、各議題ごとに質問等を受けたいと思いますがいかがでしょうか。

< 異議なしの声 >

副会長：それでは、次第3の「平成24年度事業報告」について、事務局から説明をお願いします。

< 「平成24年度事業報告」について説明・・・館長 >

副会長：「平成24年度事業報告」について、質問などがありましたらお願いします。

委員：教育普及について、区内の学校の参加が少ないように思いますが如何でしょうか。また、商店街と美術館で協働で実施したフラッグづくりは好評でしたが、今年度も実施するのですか。

館長：教育普及事業につきましては、前回のこの会議でも様々なご意見をいただきました。

今年度、本日の資料の「スクールプログラム2013」(平成25年度版)を作成し、学校長宛てと美術・図工の先生方に4月に配布させていただきました。併せて、中学校の美術科の方の先生の研修会に参加させていただき、スクールプログラムの説明をさせていただきました。また、各企画展開催中にティーチャーズデーを実施し、展示会の見どころを担当学芸員より美術・図工の先生方に説明をさせていただき、児童・生徒の皆さんの一層のご利用をお願いしております。地元商店街とのワークショップ事業でございますが、今年度についても実施する予定ですが、時期は商店街との協議により決定いたします。

委員：ありがとうございます。学校との連携はスクールプログラムでよくわかりました。学校、学童クラブ、幼稚園、保育園などや美術部のある中学校や高校がもう少し美術館に連れて来やすくするための方法を、学校側に周知していただき、学校との距離を縮めるように積極的に取り組んで欲しい。

副会長：それでは「平成24年度事業報告」について、了承とさせていただきます。

つぎに、次第4の「平成25年度事業計画」について、事務局から説明をお願いします。

< 「平成25年度事業計画」について説明・・・館長、学芸員 >

副会長：「平成25年度事業計画」について、質問等がありましたらお願いいたします。

委員：学校との連携について、昨年度に比べてあまり変化が見られないように感じます。美術館の教育普及事業を半年間ぐらい見てきましたが、学校との連携以外の事業は素晴らしい内容です。学校との連携をどうしたらいいのか、ここにいらっしゃる皆さんからご意見やよい方法があれば教えていただきたいと思います。

私が考えていることは、1月に行われている小中学校の作品展等に参加している子ども達が自分達の作品を見るだけで、それ以外の展示はあまり見ていないように思います。

夏休みの宿題で地元の美術館に行く宿題をだしていただく。簡単にできるワークシートを事前に先生と相談して作成しておけば、子ども達は美術館に来るようにできるのではないのでしょうか。

委員：児童・生徒の来ている団体鑑賞の学校の記載してある18ページをみると、すぐ近くの私立学校や区立小学校などは、だいたい歩いて20分ぐらいの学校です。

一つのカリキュラムを進めていくうえで、小中学校とも年間計画の教育計画に基づいて進めています。

2～3月に新年度計画を作成し、4月からスタートします。

前年度のうちに次年度の計画が立てられます。美術館に見学に行く計画を立てるには、展覧会の内容や開催時期が事前にわかることが必要です。

そのうえで、ただ美術館に行くという計画ではなく、美術館に行く「目標」「ねらい」を立てます。学校教育はすべて計画的・継続的なものです。例えば、音楽鑑賞教室は全中学校が練馬文化センターに行くのですが、そのために、半年前から移動の時間や給食をどうするかなど計画を立てるのです。

スクールプログラムのなかの、職場体験等は前年度に先生方に知らせれば、やってみようと思う先生もいると思います。

うちの美術部は、夏休みに上野の美術館めぐりをやっています。なぜ上野の美術館かと言えば、そこに展示してある作品を目的に行っているのです。

常々、考えているのですが、美術館との連携のアイデアがなかなか思い浮かばないのが現状です。

委員：私ども府中美術館では、市内に小学校21校、中学校11校ございます。練馬区は小中で99校ですから、練馬区の3割弱しかございません

ん。だからできるのですが、年間の企画展に小学校4年生が年1回は全員が来館できるようにバスの借り上げ料を予算化しています。学芸員が鑑賞教室を開催しています。

中学校は1年生を対象に夏休み期間の企画展に学生証により無料で入館できるようにしています。

これを練馬区に普遍すると大変な予算になります。練馬区の人口は多く、特定のクラスだけを見学させるのは、指導要領が改正されて困難であります。

私は、美術館と学校との連携は取り敢えず、出張プログラムとティーチャーズデーに先生に来てもらい、3,4年かけて学年全体にいきわたるようにしていくべきかと思えます。

委員：中学校の作品展の話ですが、参加者は作品展に出品している生徒の父母、祖父母、兄弟姉妹が主に来てくれています。作品数の5～6倍の人数になります。参加者は子ども達の作品を見ることを目的で来館するので、作品を見れば帰ってしまいます。その方々にほかの展示を見てもらう工夫が必要かと思えます。

委員：話題が教育のほうに偏っているのではないかと思います。練馬区には立派な彫刻家があります。作家は石膏で作品を持っていて、その作品を練馬区がブロンズにして皆さんの目につきやすい場所60か所に展示しているのです。その作品に子ども達はどれくらい目を向けてくれるのか。アートとしてすばらしい作品も多く、美術館だけでなくアートは生活の周辺にあります。その点にも目を向ける指導を先生方には是非やってほしいと思えます。

委員：美術館の鑑賞は、ほとんどが受動的で、児童・生徒は先生やキュレーターの方から、受動の形で、子ども達に興味を持つのかと思う。私が言うことは、かなり美術館の方に負担をしいます。私は建設会社の研究所に勤めていますが、地域の小中学生が見学に来ますが、子ども達が一番喜ぶのは、物に触れ、体感することです。低学年から大人まで触れて体感することを喜ぶのです。美術館でも触れるものが良いと思います。例えば、大坂先生の展覧会の時に、私は大坂先生の作品に触りたいなとずっと思っていました。

そのことが子どもも大人も興味を持てるのではないかと思います、いかがでしょうか。

課長：いろいろ各委員から貴重なご意見をいただきました。

私どもも、前回の委員会でご意見をいただき、学校との意見交換をし

てきました。その観点は、校長先生からお話しがありましたが、学校は教育目標に沿ったカリキュラムを組んで動いています。そのなかで、美術館の活動が教育目標にどうあてはまるかを、学校と情報交換させていただいております。

美術館には子ども達への教育機能があります。さらに情操教育や美術作品の見方などから、子ども達の興味関心を引き出していきます。

学校との連携を先進的に取り組んでいるところもありますので、研究してまいります。学校との連携について、情報交換をはじめたところですので、もう少し、お時間をいただきますようお願いいたします。また、美術館以外に区内にブロンズ彫刻を40点ほど展示しておりますし、区内施設に美術家協会のご協力をいただき、絵画作品などを展示しています。日常のなかで知らずに目に触れているのです。一方でどこに彫刻があるかわからないこともあり、皆様のご意見を参考にさせていただきながら、ウォークラリーと組みあわせて彫刻作品等を鑑賞するなどの事業の検討をしてまいります。

委員：小学校の図工の教員の立場からお話しさせていただきます。小学校でも中学校の校長先生からお話しがありましたように、教育目標に沿った形で、カリキュラムを組むことは同じです。ですから年間計画に位置付けづけていないと、なかなか美術館に児童を連れてくるのは難しいと思います。ティーチャーズデーで先生方に見どころを教えてもらい、学校に持ち帰り、子ども達に伝える。子ども達を団体鑑賞で美術館に連れてくるためには、いつ、どの展覧会に連れてくるか。その展示内容が教育目標に合致しているかなどが団体鑑賞に繋がります。学校の場所により、交通の便も様々ですので一概に言い切れませんが図工専科として美術館の教育普及事業にどう関わらせるかは、大きな課題と認識しています。現状でなかなか美術館に連れて来られないため、学校に展覧会のポスターを掲示し、授業のなかで紹介をしていきたいと思います。

学芸員：担当学芸員として申し上げます。先程、委員からお話しがあった教育目標に企画展の内容が合致する場合は、団体鑑賞も多くなります。平成23年度に実施した磯江展の作品が写実であったため、こども達にわかりやすいこともあり団体鑑賞や美術部の鑑賞が多かったです。平成24年度も、船田展、棚田展、小林展などの展覧会には団体鑑賞がありました。今年度も8月に中学校の美術部の女子が鹿島展に来館することになっています。ファッションに興味を持っている子ども達が来館してくれるのだと思います。

また、明後日は新座市の学童クラブの児童が50名来館し、展覧会の鑑

賞や施設見学、さらにステンシルなどを制作する予定です。

先程、委員から作品に触れられないかとの話が出ていましたが、このような形で美術館に来てくれる子ども達に作品づくりの面白さを体感してもらうようにしています。今後は区内の先生方にも、団体鑑賞と教育普及事業とのセットのプログラムを伝えて、来館してもらうようにしていきます。併せて夏休みの宿題として美術館に来館している人数なども調査して、人数などがわかれば、資料に反映していきたいと思います。

副会長：平成24年度の事業計画については、承認とさせていただきます。
つぎに、次第5の「今後の展覧会予定」について、説明をお願いします。

<「今後の展覧会予定」について説明・・・館長>

平成27年の2～3月には、空調機の改修工事と収蔵庫の整理などで館を2月末から3月まで休館する予定です。

副会長：「今後の展覧会予定」について、質問等がありましたらお願いします。

委員：館長の展覧会予定の説明は熱が入っており、平成26年度もさらなる成果が上がるのではないかと思います。特に、7月から開催予定の「あしたのジョー展」については、メディアを使って宣伝をお願いしたい。行政の宣伝は、開催の直前になって出すことが多い。私は常々、3～6月前に周知することにより、区民の方が興味を持ってもらえると思っています。今までの館長の報告を聞いているなかで、新聞、メディアを活用して大きな成果を上げていると思いますが、さらなるご努力をお願いします。

館長：ありがとうございます。「あしたのジョー展」はできるだけ早目に構想を固めまして、商工観光課とも連携をとりながら、練馬区をあげての事業展開ができるよう努力してまいります。

委員：私は向山・中村地域に育ち、美術館は生活圏になります。商店街の活性化やコミュニティーの活性化が重要と考えています。サンツ中村橋商店街と協働でワークショップを行い、フラッグを制作したことは大変に好評で、地域の方も喜ばれていますので、是非継続していただきたいと思えます。また、「あしたのジョー展」はアグレッシブな取り組みです。先程の地域文化部長の話のなかの、裾野を広げる取り組みにあたると思えます。

ここで、具体的な提案をしたいと思います。区内の観蔵院という立派なお寺があります。そこに芸大の染川英輔氏が18年かけて描いた、すばらしい「金剛界曼荼羅」があります。一昨年のNHKの大河ドラマでもその作品が使用されていました。非常に見事な作品であり、ほかにもコレクションがあると聞いています。これらを美術館で展示できないでしょうか。

館長：今後、研究させていただきます。なお、商店街との協働事業は今年度も継続してまいります。

副会長：「今後の展覧会予定」について、質問がなければ、了承とさせていただきます。

続いて、次第6の「美術の森緑地整備」について、説明をお願いします。

< 「美術の森緑地整備」について説明。 副館長 >

副会長：「美術の森緑地整備」について何かありますか。

委員：私は図書館を利用していますが、美術館、図書館、美術の森緑地との一体性を考えて自転車駐輪場の確保をどのように考えていますか。

館長：現在ある駐輪場を利用していただければ、充足していると考えています。入口付近の駐輪場が偏って利用されているので、適切に誘導すれば、大丈夫だと思います。それでも駄目であれば、検討したいと思います。

副会長：質問がなければ、了承とさせていただきます。

以上で、本日の議事については、終了します。

つぎに、次第7の「その他」に入ります。事務局から何かありますか。

館長：特にありません。

副会長：それでは、以上で本日の運営協議会は終了といたします。

次回は2月か3月頃の開催を予定しております。

長時間、ご協力ありがとうございました。